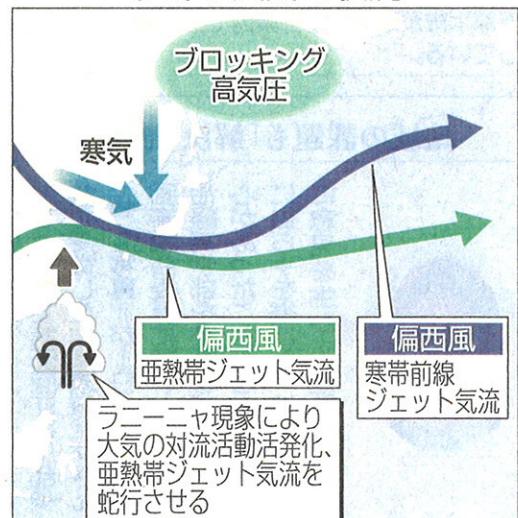




今冬の大気の状況



除雪車が行き交う国道148号沿いで雪かきをする住民=1日午後4時10分、小谷村雨中

長野地方気象台は1日、強い寒気が県内上空に断続的に流れ込み、3日朝にかけて北部山沿いと中野飯山地域を中心にして、大雪になる恐れがあるとして、大雪に関する気象情報を発表。心に大雪になる恐れがあるとされる。

1月の積雪 小谷・信濃町で史上最大

あすにかけ大雪の恐れ

2日午後6時までの24時間予想降雪量は、いずれも多い所で、大北地域山沿い、長野地域山沿い、中野飯山地域で50センチ、大北地域平地、長野地平地、上田地域の菅原周辺で15センチなど。

今冬は強い冬型の気圧配置による日が多く、県内は新潟県境で降雪が増えている。

1月の大雪・寒さ

1月の厳しい寒さと大雪の原因として気象庁は「ラニーニャ現象」による偏西風の蛇行で寒気が2方向から流れ込んだこと、「ベーリング海」に発生した「ブロッキング高気圧」を挙げる。

同様によると、今年は北側に寒気を伴う偏西風「寒帶前線ジェット気流」と、別の偏西風で中緯度

帯を流れる「亜熱帯ジェット気流」がともに日本付近で蛇行。二つの偏西風は日本付近の上空で合流した状態となり、寒帶前線ジェット気流は北から、亜熱帯ジェット気流は西寄りから寒気を呼び込んでいる。

亜熱帯ジェット気流の蛇行は、ラニーニャにより西部太平洋赤道海域で大気の対流活動が活発化したのが一因とみられるが、「寒帶前線ジェット気流の蛇行の原因は解説されていない」という。

さらに、1月中旬にベーリング海で発生したブロッキング高気圧が寒気を日本付近に押しとどめる役目を果たした。ブロッキング高気圧は1月末から西に移動し弱体化したが、今度はこの高気圧がシベリア付近でせき止められた。寒気が南下し始め、今週末にかけて日本付近に流れ込むとみていい。

【関連記事29面】
2日午後6時までの24時間予想降雪量は、いずれも多い所で、大北地域山沿い、長野地域山沿い、中野飯山地域で50センチ、大北地域平地、長野地平地、上田地域の菅原周辺で15センチなど。

今冬は強い冬型の気圧配置による日が多く、県内は新潟県境で降雪が増えている。

同様によると、今年は北側に寒

偏西風蛇行 二つの寒さ